

第四條 棄兒迷子養育料ノ儀ハ僅カニ其食料手當ノミニ過キサルモ
 ノニシテ之ヲ以テ該兒萬般ノ費用ニ充ツ可ラサル勿論ニ付食料外
 ノ世話ニ至テハ之ヲ養育セントスルモノ歟或ハ其居付候町村ノ負
 擔スヘキ筈ニ候處自然拾ヒ揚人及ヒ居付候町村ニ於テ假令養育料
 ノ支給アルモ前述食料ノミニ過キサルヲ以テ到底世話難致旨申立
 候片ハ明治四年辛未四月廿三日御布告復籍規則第三條ニ元來迷子
 棄兒等ニシテ生所不分明ノ者ハ夫レ迄居付候地ノ籍ハ編入可致事
 ト有之ニ據リ該兒生所不分明ノ上ハ其町村ノ籍ハ編入スヘキ筈ニ
 シテ即チ其町村ノ人民タレハ官廳定規ノ養育料ヲ支給候ニ就テハ
 其餘ノ世話ニ於ケル其町村ノ辭ス可カラサル筋合ト相心得右ノ旨
 趣ヲ以テ命達シ不苦候哉
 右相伺候條至急御指令相成度候也

〔指令〕同 年書面伺ノ趣左ノ通心得ヘシ
 九月十六日

第一二條 伺ノ通

第三條 棄主發覺ノ當日マテハ養育米支給スヘキ儀ト心得ヘシ

第四條 追テ相違候マテ從前ノ通取計ヘシ

〔兵庫縣伺〕明治十四年 爰ニ無妻ノ戸主アリ數人ノ幼兒ヲ抱ヘ漸クニシ
 八月十二日
 テ當日ヲ凌キ居候處此者犯罪ニ罹リ懲役ニ處セラル然ルニ之レカ幼
 兒ニ於ケル他ニ養育スルモノ及ヒ親族ノ頼ルヘキモノ無之飢餓ニ迫
 ルノ趣ヲ以テ右幼兒救助ノ儀該戸長ヨリ申立候者有之右ハ舉家幼弱
 ノ輩ノミ他ニ擁護スヘキモノ無之儀ニ付明治七年(十二月)第百六拾二
 號公達恤救規則第四項ニ準シ戸主處刑滿期迄救助取計置可然據相考
 候得共規則上明文無之ニ付此段相伺候也
 但本文ノ通取計不苦儀ニ候ハ、懲役期限ノ長短ニ關セサル儀ト相

心得へキ哉

〔指令〕同九月十五日 年書面伺ノ通

〔靜岡縣伺〕明治十四年六月廿九日 馬ヲ屠リ其肉ヲ食料物ニ販賣致度旨出願ノ者アリ右ハ有害物ニハ無之様ニハ候得共尋常ノ食料ニ供スヘキ物ニ無之儀ト相考候間斷然許可不致儀ト心得可然哉至急何分ノ御指揮相成度

此段相伺候也

〔指令〕同七月六日 年書面伺ノ趣ハ許可致シ候モ不苦儀ト可相心得事

〔岐阜縣伺〕明治十四年八月十二日 馬肉販賣ノ儀ニ付明治十一年十一月中別紙ノ通相伺候處御指令ノ趣モ有之候間是迄販賣不差許候處近來近縣ニ於テ販賣差許有之追々本縣下へ輸入候ニ付テハ比隣ニシテ禁許ノ別有之候テハ實際不都合ノ儀ニモ候間人身ノ健康ニ害無之モノニ候ハ、取締方法相設食用販賣差許申度此段相伺候至急御指揮有之度候也

〔指令〕同十一月十日 年伺ノ趣聞届候事

但牧馬蕃育ヲ妨害セス且病馬肉街賣ノ弊ヲ生セサル據取締方注意可致事

〔愛知縣伺〕明治十四年九月廿日 本年二月天第五百四拾八號ヲ以テ無籍顛狂人ニ關スル費用官費支拂ノ儀相伺候處同年四月十五日付ヲ以御指令相成爾來一兩名ノ顛狂人ハ不斷有之今日迄ハ監獄內在來ノ家屋相用取締致來候得共犯罪人モ夥多有之且懲治人等ノ如ク雜居難爲致ニ付最早可差入場所無之目下ノ形况ニテハ到底其用ニ供ス可キ家屋相備へ置ステハ實際差支不少候ニ付病院內其他便宜ノ地へ相當ノ古屋等修理ヲ加へ相用度候處費用支出ノ例規無之右ハ衣食藥劑器具及看守人費ノ如ク官費支辨ニ比準ス可キモノト不相見何等ノ費途ヨリ支出致シ可然ヤ若シ地方稅ヲ以支辨スルモノニ候ハ、何費目ニ屬ス可キ哉疑

義決兼候間至急何分ノ御指令相成度此段相伺候也

〔指令〕同 十一月十九日 年 書面伺ノ趣地方稅救教育費ヲ以テ支辨可致事

岐阜縣公文類纂 第二編

索引目錄

第一款 衛生事務

○甲第三十號 町村衛生委員事務取扱手續改正ノ件 一丁

第二款 醫事取締

○甲第百壹號 開業醫出張ノ件 九丁

第三款 飲食物取締

○衛生會報告第二號 飲料水注意ノ件 十丁

○甲第七十三號 牛乳搾取販賣ノ件 十二丁

○甲第九十七號 製氷並氷販賣ノ件 十九丁

○甲第三百三十四號 牛馬屠場並牛馬肉販賣ノ件 二十一丁

第四款 窮民救療

- 甲第八十二號 郡醫配置ノ件 二十七丁
 - 甲第八十三號 施療券及牛痘施種券ノ件 三十丁
 - 甲第九十三號 施療券并牛痘施種券發行ノ件 四十四丁
 - 第二號 施療ノ儀ニ付郡長へ達ノ件 同丁
 - 乙第十八號 從前ノ貧患者救治廢止ノ件 同丁
 - 丙第五十八號 貧患者救療廢止ニ付戶長衛生委員へ達ノ件 同丁
 - 衛生課報告第五號 郡醫住所姓名報告ノ件 四十五丁
- 第五款 種痘
- 丙第十號 種痘結社廢止ノ件 五十一丁
 - 丙第十三號 種痘表開申ノ件 五十二丁
 - 甲第九十二號 種痘心得ノ件 同丁
- 第六款 病災豫防

- 衛生課報告第六號 水害後流行病豫防ノ件 六十丁
 - 丙第七十七號 京都府以西虎列拉病流行ニ付旅行見合セノ件 六十三丁
- 第七款 雜事
- 甲第三百三十號 衛生上取締ノ件 六十四丁

岐阜縣衛生公文類纂 第二編

〔甲第三十號〕明治十四年三月十日 明治十三年(五月)本縣甲第三十五號ヲ以及布達

候各町村衛生委員事務取扱手續中左ノ通改正増補候條此旨布達候事
但第一條中第一第三ノ兩項ハ本年一月分ニ遡リテ之ヲ調査シ第二
項ハ來ル四月ヨリ施行可致事

第一條 流産ノ下(婚姻等)ノ三字ヲ加フ

同第一項(本籍寄留及男女父ノ職業)ノ十一字ヲ刪リ(私生兒ノ別)ノ下ハ
(及其正産)ノ四字ヲ加ヘ(毎月)ヲ(每半年)ニ(三ヶ月)毎ニ(翌月)七月十日
限ニ作ル

同第二項ノ次ニ(一町村内ノ婚姻數ハ戸長役場ノ簿冊ニヨリ每半年三
號書 精密ニ取調翌月七月十日限郡長ニ報告スヘシ)ノ一項ヲ加フ

第十條 第一項ノ全文ヲ(一虎刺列、腸室扶私、發疹室扶私、痘瘡實扶的里

解 釋

一反別ハ町村ノ官私有地潰地等ノ別ナク總反別ヲ記載ス

一人口ハ前期末ノ現在數ヲ記載ス

一現在夫婦ノ數ハ其月末ノ員數ヲ掲ク

一夫ニノ妻及ヒ數人ノ妾ヲ蓄フ者モ妾ノ公然入籍シタ尙ホ之ヲ一ルト否トヲ問ハス

夫婦トス

一妻ナクシテ妾アルモノハ其妾既ニ公然送入籍ノ手續ヲ了スレハ之

ヲ夫婦ニ算シ未タ其手續ヲ了セサル者ハ之ヲ算セス

一流産ハ妊娠四ヶ月以上ノモノヲ記ス

但滿十ヶ月ト雖モ死胎分娩ノモノハ總テ之ヲ流産ノ部ニ入ル

一前年同月出產員數ハ假令ハ七月ノ線ニハ前年度七月ノ數ヲ記シハ

月ノ線ニハ前年度八月ノ數ヲ掲クルノ類ニシテ以下各月皆此例ニ

準 ス

一比較ハ各其前年同月ノ數ニ比ヘテ其増減ヲ掲ク假令ハ七月ハ前年

度七月ノ員數ニ比較シ八月ハ前年度八月ノ員數ニ比較スルノ類ナ

リ

一妾腹ノ子モ公生ニ算スルハ勿論ナリト雖モ若シ其妾未タ公然送入

籍ノ手續ヲ經サル者ハ尙ホ之ヲ私生ト見做ス

一他管ヨリ入寄留ノ者ヲモ數中ニ算入スルモノトス尤モ通過ノ旅人

及ヒ一時滯泊ノ者ハ此例ニ非ス

五十年以上ノ婦何偶 廿年以上ノ婦何偶 廿年以下ノ婦何偶
 一十四年以上ノ人口幾何内男何人 女何人
 一十四年以上男女獨身ノ數
 未婚者何人 一回以上婚嫁セシ者何人
 一結婚離婚ノ數
 結婚 五十年以上ノ婦何偶 廿年以上ノ婦何偶
 廿年以下ノ婦何偶
 離婚 五十年以上ノ婦何偶 廿年以上ノ婦何偶
 廿年以下ノ婦何偶
 右ノ通ニ相違無之此段報告候也

年月日 何郡何村 町衛生委員 姓名 印

郡長宛

記載例

一配偶ノ數及十四年以上ノ人口ハ前期末ノ現在數ヲ掲ク
 一僧尼或ハ陰陽不具癩疾等ノ如キ終身婚嫁ノ期ナキ者モ壯者ハ勿論
 老年ト雖モ未タ曾テ一回モ婚嫁セサル者ハ總テ之ヲ未婚者ノ數ニ
 入ル
 一譬ハ男女アリ其實夫婦ニ異ラサル者モ公然送入籍ノ手續ヲ了セザ
 ル者ハ之ヲ未婚ノ數ニ入ル
 一甲乙兩地ノ男女結婚スル片ハ其居住地(即チ入籍シタル地)ノ婚姻數
 ニ入ル
 但離婚モ之ニ準シ除籍シタル地ニ於テ調査ス
 [甲第百壹號]明治十四年 近來開業醫出張ノ名義ヲ以テ無免許ノ門弟子
 十月十五日

其他ノモノヲシテ妄リニ病者ヲ專斷施療セシメ候モノ往々有之候趣
 相聞ヘ危險ノ至ニ候條以後右様ノ儀一切不相成候此旨布達候事
 但開業醫ニシテ日並ヲ定メ自身出張施療候向ハ豫テ其旨可届出候
 事

岐阜縣衛生會報告第二號

明治十四年三月三日

飲料水ノ性命ヲ保持スルニ於テ至緊至要要時モ缺クヘカラサルハ一
 般公衆ノ知ル所ナリ然ルニ本縣下ノ井泉タル多クハ庖厨浴室等ノ側
 ニ設ケ或ハ厠圍芥溜等ト相距ルテ僅々數尺ニ出サルアリ便利ハ則便
 利ナルヘシ其衛生ノ損害ヲ如何セン矧ヤ構造ノ粗畧ナルヨリ有機諸
 物禽獸蟲魚菓^類ヲ含有セル不潔汚穢ノ液汁冥々裏ニ滲透シ夙ニ水質ヲ
 變化シテ病毒發生ノ原因タラシム豈危殆ノ至ナラスヤ人煙稀疎ノ村
 落ニ於テハ稍此患害鮮キニ似タルモ耕田瀦水ノ汚濁ナルアリ緩流河

水ノ不潔ナルアリテ漸次ニ滲透竄入シ是亦同一ノ患害ヲ致ス^ル其例
 枚舉ニ遑マアラス然レハ則之カ避害ノ方法ヲ講スルハ今日ノ急務ナ
 リトス茲ニ公衆注意ノ爲報告スル^ル左ノ如シ

飲水注意法

- 一新タニ飲料井ヲ構造セントスル片ハ可成的厠圍芥溜溝渠庖厨浴
 室等ト隔離セシ地^{大凡三ニ}於テスヘシ且井戸側ノ圍ハ殊ニ堅實
 ナラシメ^{砂石ヲ用フ}間隙ニハ石灰等ヲ充填シ汚水ノ竄入ヲ防止
 スヘシ

但現在設置ノ分ハ漸次改良スルヲ要ス其己ヲ得サル者ハ修補
 等ニ際シ石垣或ハ瓦瓶等ニテ組上ケタル間隙ニハ石灰目塗ヲ
 施シ汚水ノ竄入ヲ防止スヘシ
 一井戸ノ周圍ハ必ス甲板^{タ、キ}敷石^{敷石}ヲ設ケ適宜下水ヲ疏通シ敗水ヲシ

十二
ヲ停滯セシムヘカラス

一 井戸ノ近傍ニ於テ糞糞虎子等汚穢ノ物品ヲ洗滌シ及魚鳥ノ骨腸等ヲ棄ツ可カラス

一 每年少クモ一度以上井戸浚ヲナシ井戸側ノ破損シテ汚水滲透ノ患アルモノハ速ニ修補ヲ加フヘシ

一 水質純潔ナラサルモノハ木炭或ハ砂礫ヲ以テ濾過シ又ハ煮沸十分五分時シテ定冷ノ後飲用ニ供スヘシ

〔甲第七十三號〕明治十四年七月八日 牛乳搾取販賣規則別冊之通相定候條此旨布達候事

但シ從前營業ノ分モ本文ニ準シ更ニ願出候儀ト心得ヘシ

牛乳搾取販賣規則

第一條 乳牛ヲ豢養シテ乳汁ヲ搾取販賣セントスル者ハ別紙第一號

書式ニ準シ豢場及ヒ搾取所ノ圖面相添ヘ鑑札願受クヘシ

但一枚ノ鑑札ヲ以テニヶ所若クハ二ヶ所以上ニ流用スルヲ得ス

第二條 廢業ノ節ハ第二號書式ニ準シ速ニ届出鑑札返納スヘシ

第三條 水火盜難等ニ罹リ鑑札ヲ毀失或ハ遺失セシ片ハ第三號書式ニ準シ速ニ届出ヘシ

第四條 前條ノ場合ニ於テハ第一條ノ手續ヲ以テ更ニ鑑札ヲ願受クヘシ

但豢場及搾取所ヲ轉スルモ本條ニ準ス

第五條 營業人住所ヲ轉シ又ハ姓名ヲ改ムル片ハ第四號書式ニ準シ鑑札訂正ヲ願出ヘシ

第六條 豢場及搾取所ハ掃除ヲ怠ラス勉メテ臭氣ノ發揚ヲ防キ盛夏炎熱ノ候又ハ人畜流行病アル片ハ殊ニ注意スヘシ

第七條 贗造若クハ腐敗變質セル乳汁ヲ販賣ス可カラサルハ勿論塵埃等ノ混入セサル様精々注意スヘシ

第八條 乳汁ヲ運搬若クハ貯藏スルニハ決シテ銅又ハ鉛質ノ器具ヲ用フ可カラス

第九條 乳牛病ニ罹ラハ速ニ醫師ノ治療ヲ請ケ全癒ノ證ヲ得ル迄ハ決シテ其乳汁ヲ販賣ス可カラス

第十條 乳牛増減アラハ其都度届出ヘシ

第十一條 牛乳ヲ請賣スル者ハ第七條第八條ノ旨ヲ遵守シ第五號書式ニ準シ搾取人連署ヲ以テ願出ヘシ

但請賣ニ屬スル願届等ハ總テ郡長宛ヲ以テ願或ハ届出ツヘシ

第十二條 賣子ヲ使用スル片ハ其族籍姓名ヲ詳記シ届出ヘシ

第十三條 乾酪及ヒ鍊乳ヲ製造販賣セントスル片ハ現品相添ヘ願出

許可ヲ受クヘシ

書式

第一號

牛乳搾取販賣願

何國産

一牛 何頭

内 牝何頭
犢何頭

右別紙圖面 目字番號 搾取所共願場所隣地共地種地ノ場所ニ於テ
養搾取仕度候間 鑑札御下付被下度 尤他ニ故障之筋無之ニ付隣地
保證ノ連署ヲ以テ此段奉願候也

郡町村番地

族籍

年號月日

願人

姓

名印

同

同

隣地保證人

姓

名印

同

同

同

姓

名印

縣長官宛

右之通相違無之ニ付押印致シ候也

右町村衛生委員

姓

名印

同戸長

姓

名印

第二號

牛乳搾取(請賣)廢業届

私儀何地ニ於テ牛乳搾取(何郡何町村番地何ノ誰)何社或ハ搾取牛乳請賣

罷在候處今般廢業仕候間最前御渡之鑑札相添此段御届申上候也

(肩書記名等總テ一號書式ノ如シ尤モ請賣ハ郡長宛)以下之ニ同シ

第三號

牛乳搾取(請賣)鑑札毀失或ハ何々届

私儀年號月日牛乳搾取請賣鑑札御下付相成候處今般毀失遺失盜難等ニ罹ル

事由ヲ候間此段御届申上候也

第四號

轉居或ハ何々ニ付鑑札訂正願

私儀今般郡町村番地轉居何之誰ト改姓又ハ改名仕候間鑑札御訂
正被下度最前御渡ノ鑑札相添此段奉願候也
第五號

牛乳請賣願

私儀何郡何町村番地何社或ハ何ノ誰搾取ノ牛乳請賣仕度候間鑑札御下
付被下度搾取人連署ヲ以此段奉願候也

郡町村番地

族籍

年號月日

願

人

姓

名

印

同

同

搾取人

姓

名

印

郡長宛

〔甲第九十七號〕明治十四年製氷并氷販賣規則別冊之通相定候條此旨布
八月廿九日
達候事

製氷并氷販賣規則

第一條 食用ニ供スル氷ヲ製造セント欲スル者ハ其製造場ノ圖面并
貯藏スル所ノ地名等ヲ詳記シ毎年十月三十一日限リ縣廳へ願出許
可ヲ受クヘシ

但官有地ハ拜借聞届濟指令ノ寫ヲ添へ願出ツヘシ

第二條 前條願出ノ者アル片ハ官吏ヲ派遣シ現場ヲ見分セシムヘシ
但試驗ノ爲製造所一ヶ所ニ付凡水二升ヲ酌取スヘキニ付清潔ナ
ル容器玻璃製及栓又キユルクヲ願人ニ於テ備置クヘシ
ハ磁製又ハ桐

第三條 貯藏ノ氷塊ヲ食用ニ供スル爲發賣セント欲スル片ハ頓數及

ヒ貯藏地名等ヲ詳記シ分析ノ用ニ供スル爲氷塊量目凡四百目ニ豫
テ製氷聞届濟指令寫ヲ添ヘ縣廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ

但氷塊試驗ノ上其實不真ト認ムルハ食用ニ供スルヲ許サス

第四條 他府縣ニテ製造ノ氷ヲ輸入販賣セントスル者ハ其頓數並貯
藏ノ地名等ヲ詳記シ分析ノ用ニ供スル爲氷塊量目凡四百目ニ該管
廳ノ添書又ハ製氷聞届濟指令ノ寫ヲ添ヘ前條ニ準シ願出ヘシ

但同上尤前條及本條ノ場合ニ於テ發賣許可ヲ得タルハ其指令
ノ寫ヲ添ヘ所轄警察署ヘ届出ツヘシ

第五條 卸賣小賣共發賣人ヨリ發賣聞届濟指令ノ寫ヲ添ヘタル保證
書ヲ取置行商ハ之ヲ携帶シ臨時警官ノ點檢ニ備フヘシ

第六條 食用發賣ヲ禁セラレタル者或ハ發賣檢査以前ニ係ル者ト雖
モ患者ノ外用ニ供スル醫師ノ證書アレハ販賣若クハ授與スルヲ

得

但本條ノ場合ニ於テハ該證書相添ヘ所轄警察署ヘ届出ツヘシ

第七條 天然成ノ氷ヲ伐採シテ貯藏販賣セント欲スル者モ總テ此規
則ニ準スヘシ

〔甲第三百三十四號〕明治十四年 十二月廿六日 明治十一年 二月 本縣乙第拾號達屠牛規則ヲ

廢シ更ニ牛馬屠場并牛馬肉販賣規則別冊之通相定候條此旨布達候事

牛馬屠場并牛馬肉販賣規則

第一條 屠場ヲ設ケ牛若クハ馬ヲ屠殺セント欲スル者ハ隣地主ノ承
諾ヲ得後ニ示シタル書式ニ照準シ該場及近傍ノ景况ヲ明瞭ニ記シ

タル圖面相添ヘ郡役所ヘ願出鑑札ヲ受クヘシ

第二條 屠場ハ人家遠隔ノ地ニ非レハ之ヲ設クルヲ許サス

第三條 屠場ノ構造ハ其地敷ト周圍トヲ板張トナシ且血液洗水等ノ

疏通スヘキ路ヲ付シ汚物停滯ノ患ナキ様注意スヘシ尤落成ノ上ハ
所轄警察署へ届出検査ヲ受クヘシ

但從來建設ノモノト雖モ構造宜シカラサレハ改修ヲナシ更ニ檢
査ヲ受クヘシ

第四條 屠場ニハ左ノ目標ヲ掲クヘシ
屠場ノ地名 營業人現在住所

何郡何村何番地

□ 屠牛(馬)場

何年何月日免許

第五條 屠牛馬營業人ハ豫メ立會醫員ノ姓名ヲ所轄警察署へ申出許

郡村

氏名

豎三尺

幅七寸

可ヲ受ケ置クヘシ右申出テス又ハ許可ナキ醫員ヲ立會スル并ハ其
屠殺ヲ差止ムヘシ
但立會醫員當日ニ至リ疾病事故アリテ臨時他醫ヲノ代ラシムル
并ハ其者ヨリ委託ノ證ヲ付與スヘシ

第六條 牛馬ヲ屠殺スル前日其牛馬ノ飼主住所氏名及ヒ頭數年齡牝
牡ノ別ヲ記シ所轄警察署又ハ警察分署へ届出ヘシ

第七條 牛馬ヲ屠殺スル當日警察官該場ニ臨ミ立會醫員ノ申立ニヨ
リ適否ヲ検査シ食用ニ堪ユヘキモノハ直ニ屠殺セシメ其截斷ノ皮
肉及ヒ四肢ノ爪部ニ必ス左ノ烙印ヲナスヘシ

屠 牛
何日檢

豎一吋七分
幅一寸

屠 馬
何日檢

寸法同上

第八條 牝牛馬ハ十二三歳以上孕牛馬ニ成カタキモノ、外孕胎セル牛馬ハ勿論種取ノ牝牛馬等ハ一切屠殺スルヲ禁ス

第九條 牛馬ヲ屠殺セハ立會ノ場所ニ於テ悉皆取片付臟腑穢物等ノ埋没スヘキモノハ深ク埋没シ場内ハ清潔ニ掃除洗淨スヘシ

第十條 免許ノ場所ニ非スシテ牛馬ヲ屠殺スルヲ禁ス

第十一條 屠場内ニ於テ斃牛馬ヲ剖割スルヲ禁ス

第十二條 屠牛馬ノ肉ヲ賣渡スハ之ヲ販賣シ得ヘキ鑑札ヲ所持シタルモノニ限ルヘシ無鑑札ノモノニ販賣スルヲ許サス且賣渡ス時

ハ其者ノ鑑札ヲ檢シ住所姓名秤量代價ヲ賣上帳ニ詳記シ必ス烙印アル部分ヲ賣渡スヘシ

第十三條 獸肉卸賣小賣營業ノ者ハ無鑑札ノ者ヨリ買取ヘカラス其買取タル肉ヲ小賣スルハ烙印ノ部ヲ殘シ漸次ニ截賣スルモノトス

但料理屋飲食店ニテ烹煮調理シタル肉ヲ客ヘ供スルモ必ス本條ニ準ス

第十四條 屠牛馬營業人若クハ獸肉卸賣小賣營業人及ヒ料理屋飲食店ニ於テ腐敗ニ傾キタル肉ハ勿論各種ノ肉ヲ混同シ或ハ他肉ヲ偽リテ食用ノ爲メ販賣スルヲ禁ス

但鮮肉ト雖モ屠場外ノ屠殺ニ係ルモノハ本條ニ準ス

屠牛(馬)營業願

何郡何村何番地字何

一何地反別何反何畝步

人家ヲ距ル何町何間

今般右ノ地所ニ於テ或ハ借受屠場取設屠牛(馬)營業仕度候間御差支モ無之候ハ、御免許被成下度別紙屠場及近傍地ノ圖面相添此段奉願候

也

年月日

何郡何町何番地住(士族)平民 寄留人ハ本籍ヲモ併記ス

願 人 氏 名 印

借地ナレハ地主連署ス

何郡何村何番地住(平民)士族

隣 地 主 氏 名 印

隣地主幾名アルモ悉ク連署ス

郡 長 宛

前書屠場取設之儀他ニ差支ノ廉無之候也

地元戸長

氏 名 印

地元衛生委員

氏 名 印

〔甲第八十二號〕明治十四年七月廿五日 今般別記之通各郡へ郡醫ヲ配置シ貧民救療

ニ係ル事項爲取扱候條此旨布達候事

但郡醫住所姓名ハ衛生課ヨリ報告スヘシ

第一條 郡醫ハ土地ノ廣狹ニヨリ左ノ如ク設置ス

美濃國

厚見郡 一人

各務郡 一人

方縣郡 一人

羽栗郡 一人

中島郡 一人

海西郡 一人

多 藝 郡	一 人
上 石 津 郡	一 人
不 破 郡	二 人
安 八 郡	二 人
大 野 郡	二 人
池 田 郡	二 人
本 巢 郡	二 人
席 田 郡	二 人
山 縣 郡	一 人
武 儀 郡	二 人
郡 上 郡	二 人
加 茂 郡	二 人
可 兒 郡	一 人

土 岐 郡	一 人
惠 那 郡	二 人
飛 驒 國	
大 野 郡	二 人
益 田 郡	二 人
吉 城 郡	二 人

合計三十三人

第三條 郡醫ノ在職年限ハ滿五ヶ年トシ滿期毎ニ之ヲ改撰セシムル者トス

但前任ノ者ヲ再撰スルコトヲ得

第三條 郡醫タルハキモノハ衛生會ニ於テ公撰セシメ縣令之ヲ命ス
第四條 在職年限中ト雖モ時宜ニ依リ解任シ更ニ公撰セシムルコトヲ

ルヘシ

第五條 郡醫ノ年俸ハ左ノ通給與ス

一等給 二十四圓 二等給 二十圓

但事務ノ閑劇ニヨリ之ヲ區別ス

第六條 旅費ハ往返里數ヲ通算シ一里毎ニ金十二錢ヲ給シ宿泊スレハ金三十錢ヲ給ス

但近傍へ派出シ深更迄職務ニ從事シ宿泊セサル片ハ辨當料ヲ給ス

〔甲第八十三號〕明治十四年七月廿五日 本年本縣甲第八十二號ヲ以郡醫配置ノ儀及布達候ニ付テハ施療券及牛痘施種券發行假規則并郡醫職務心得別冊ノ通候條此旨布達候事 但施行日限ハ追テ相達スヘシ

施療券及牛痘施種券發行假規則

第一條 施療券ハ第一號式各郡ノ貧民疾病ニ罹リ自費ニテ醫療ヲ受ケ難キ者ニ限り診察料及藥價ヲ要セスシテ治療ヲ施ス證券ナリ

第二條 縣廳ニテハ施療券若干ヲ前月廿五日迄ニ各郡役所へ頒布スヘク各郡役所ニ於テハ其部下貧民ノ自費ニテ醫療ヲ受ケ難ク且他ニ救助ヲ仰クヘキ者ナクシテ目下生活ニ困ムモノニ限り戸長及衛生委員ノ連署ヲ以テ願出ルル片ハ其請ヲ允シテ施療券ヲ授クヘシ 但郡役所ニ於テハ施療券名簿ヲ製シ一ヶ月限りノ番號ヲ付シ施療券ヲ付與セシ貧民ノ住所姓名及ヒ員數ヲ詳記スヘシ 第三條 郡役所ニ請取タル該月分ノ施療券ニ不足スル片ハ臨時ノ増付ヲ縣廳ニ請求スヘシ又剩餘アル片ハ之ヲ翌月ニ差繼ヘシ 第四條 郡役所ニ於テ貧民へ施療券ヲ附與スル片ハ其券ノ表面ニ其

町村名番地戸主姓名本人姓名族職業年齢ヲ詳記シ年月日ヲ書シ郡役所ノ印ヲ捺シ且ツ名簿ト割印スヘシ

第五條 施療券ヲ所持スル貧民ハ本縣病院又ハ最寄郡醫ノ宅ニ就テ治療ヲ乞フヘシ若シ病症危重ニシテ往テ察診ヲ受クルコト能ハサルハ施療券ヲ持參シテ郡醫ノ來診ヲ乞フコト得

但危症ニシテ施療券ヲ請求スル邊ナキ場合ニ於テハ一時戸長或ハ衛生委員ノ添書ヲ以テ直ニ郡醫又ハ本縣病院ニ就キ施術ヲ受ケ後三日内ニ第二條ノ手續ヲ以テ施療券ヲ請求スヘシ

第六條 施療處方箋第二號式ハ縣廳ニ於テ之ヲ製シ本縣病院及郡醫ニ頒付スルヲ以テ本縣病院及郡醫ニ於テハ之ニ藥方及其分量用方等ヲ詳記シ投劑ノ年月日及自己ノ姓名ヲ記シ捺印スヘシ

但方箋ニ藥方ヲ記スルハ一紙ニ十日分ヲ過クヘカラス且書體ハ

楷書ヲ用ユヘシ

第七條 郡醫ハ投劑ノ度毎ニ施療券ノ裏面ノ欄内ヘ其月日或ハ休藥死第一號式裏面ノ月日ヲ記入シ捺印之上毎月未處方箋ト共ニ施療ノ人員藥劑ノ種類金額ヲ總計シタル表ヲ製シ之ヲ郡役所ヘ差出スベシ甲郡醫乙郡ノ患者ヲ治療シタルハ其患者所屬ノ郡役所ヘ差出スモノトス

但本縣病院ニ於テモ同様ノ手續ヲ爲シ郡役所ヘ差出スヘシ

第八條 施療券ハ一ヶ月限りノ證券タレハ醫師ニ於テ翌月ニ涉ルヘキト思考スルハ前以テ患者ニ說示シ更ニ新券ヲ受取來ラシムルヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ戸長及衛生委員ノ連署ヲ要セス醫員ノ證書ヲ以テ郡役所ヘ新券ヲ請求セシムヘシ

第九條 郡役所ニ於テハ本縣病院及郡醫ヨリ毎月未出セル施療券及藥價總計表ヲ名簿ニ照シテ調査濟ノ印ヲ捺シ翌月五日迄ニ取纏メ處方箋ト共ニ本縣衛生課ヘ差出スヘシ

但施療ノ人員藥劑ノ種類員數及金額ヲ總計シタル表ヲ付シテ差出シ其支拂金ヲ得テ之ヲ病院及郡醫ニ配附スヘシ

第十條 牛痘施種券第三號式ハ各郡ノ貧民自費ニテ種痘ヲ受ケ難キ者ニ限リ謝料ヲ要セスシテ種接スルノ證券ナリ

第十一條 縣廳ニ於テハ施種券若干ヲ前月廿五日迄ニ各郡役所ヘ願付スヘク各郡役所ニ於テハ部下貧民ノ自費ニテ種痘ヲナス能ハサルモノハ戸長及衛生委員連署ヲ以テ願出ルルハ之ニ施種券ヲ附與シ種接ヲ督責シ以テ牛痘普及ヲ圖ルヘシ

第十二條 郡役所ニ於テハ貧民ニ施種券ヲ附與スル時ハ券ノ表面ニ

其町村名番地戸主姓名本人姓名族職業年齢ヲ詳記シ年月日ヲ書シ郡役所ノ印ヲ捺シ名簿ト割印スヘシ

第十三條 牛痘施種券ヲ所持スル貧民ハ郡醫ノ宅ニ就キ種接ヲ乞フヘシ

第十四條 郡醫ハ種接ノ上ハ券ノ裏面ヘ初種再三種ノ別ヲ記入シ捺印ノ上毎月末人員ノ總計表ヲ付シ郡役所ヘ差出スヘシ

但郡役所ニ於テハ郡醫ヨリ毎月未出セル施種券ハ名簿ニ照シテ調査濟ノ印ヲ捺シ翌月五日迄ニ取纏メ初種再三種ノ別及人員男女ヲモ區ノ總計表ヲ付シ本縣衛生課ヘ差出スヘシ

第十六條 郡役所ニ於テハ施療券施種券ニ用フル印鑑ヲ豫テ本縣病院及ヒ郡醫ヘ廻シ置ヘシ

面 表

第一號式

施療ヲ乞フルハ必ス此券ヲ持參スヘシ此券ハ他人ニ貸與スルヲ禁ス

第何號
施療之證

何國何郡何町何番地

誰父或ハ何々

職業 姓 名

年 齡

明治 年 月 日
岐阜縣 何郡役所

甲ノ月ヨリ乙ノ月ニ亘ル片ハ更ニ新券ヲ乞フヘシ

施療券鑑形

面 裏

何月何日劑(丸散泡劑)何貼○
等

何月何日水劑何日分○

何月何日(ヨリ休藥)(死亡)○

--	--	--	--	--	--	--	--

第三號式

施種ヲ乞フ者ハ必ス此券ヲ持參ス
ヘシ

第何號
牛痘施種之證

何國何郡何町何番地
何誰幾男或ハ何々
姓名
年齡

明治 年 岐阜縣
月 日 何郡役所

此券ハ他人ニ貸與スルヲ禁ス

牛痘施種券鑑形

第二號式

此券面ニハ岐阜縣病院ノ醫員若クハ
郡醫ノ外處方ヲ記スルヲ得ス

第何號

病名

姓名

年齡

煎劑

何々

何貼

(泡劑)

何々

(散藥)

何々

(水劑)

何々

何日分

用法ヲ詳記スヘシ

何郡醫

明治 年
月 日

何國何郡何町

姓名 ○

代診タルトキハ姓名ノ肩ニ
(何郡醫姓名代診)ト書スヘシ

施療處方箋鑑形

岐阜縣郡醫職務心得

第一條 郡醫ハ濟恤ノ趣旨ヲ體認シ貧民ノ救療及ヒ種痘死體檢按等
左ノ條項ニ依テ從事スヘシ

但惡疫ノ流行等ニ際シテハ治療及豫防ノ事ニ從ハシムルヲアルヘ
シ

第二條 施療券及施種券ヲ持シ來ルモノハ懇切ニ取扱ヒ渾テ施療券
牛痘施種券發行假規則ニ依リ處置スヘシ

但種痘ハ明治九年(四月)內務省布達種痘醫規則ヲ遵守スヘシ

第三條 郡醫若シ疾病事故アリテ診療スル能ハサルハ一時最寄郡
醫若クハ他ノ開業醫師ニ代診セシムルヲ得 代診醫若シ自己ノ藥
方箋ハ依頼セシ郡醫
ヨリ取束子差出ヘシ

第四條 疾病危重ニシテ歩行スルヲ能ハズ爲ニ來診ヲ乞フモノアル

并ハ施療券ヲ證トシテ其家ニ就キ診察シ治療ヲ施スヘシ

第五條 施療券ヲ持シ來ル患者ヲ診察スルニ陳病癘疾ニシテ治癒ノ
目的ナキ者ハ當分ノ處置ヲ施シ本人或ハ親族等ニ説諭シ且其事由
ヲ郡役所へ通知スヘシ

第六條 施療ハ別ニ其簿冊ヲ製シ置每半年別紙ノ通患者表ヲ製シ翌月
七月十五日迄ニ郡役所ヲ經テ本縣衛生課へ差出スヘシ

第七條 受持部内ノ貧民死亡セシニ主任ノ醫師ナクノ其家人ヨリ戶
長或ハ衛生委員ノ添書ヲ持シ死體ノ檢按ヲ乞フ并ハ其家ニ到リ死
者ノ病狀ヲ家人等ニ尋問シ其屍ヲ檢シ不都合ナキ并ハ死亡屈ヲ付
與スヘシ若シ死體ニ異狀アルカ或ハ疑フヘキ狀況アル并ハ直チニ
警察署又ハ分署へ通知スヘシ

但貧困ニアラサルモ本條ノ場合ニ遭遇シ臨檢ヲ乞フ并ハ之ニ應

〔甲第九十三號〕明治十四年八月十八日本年本縣甲第八十三號ヲ以及布達候施療券並牛痘施種券來ル九月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

〔第二號〕明治十四年八月十二日郡長今般本縣甲第八十二號及八十三號布達ノ通各郡

ヘ郡醫ヲ配置シ專ラ貧民救療ニ係ル事項爲取扱候ニ付テハ本年創始ノ儀ニモ有之施療ノ旨趣貫徹不致或ハ手數ヲ厭ヒ施療不相受非命ニ斃レ候様ニテハ惘然ノ次第ニ付各町村戸長及衛生委員ニ於テ篤ク注意候様懇篤可致示諭此旨相達候事

〔乙第十八號〕明治十四年八月十八日郡役所本年本縣甲第八十三號ヲ以貧民救療ノ儀

布達候ニ付テハ從前ノ貧患者救治ニ關スル達廢止ノ儀ニ付本縣丙第五十八號ヲ以戸長衛生委員ヘ相達候條此旨相達候事

〔丙第五十八號〕明治十四年八月十八日戸長衛生委員本年本縣甲第八十三號ヲ以テ貧民救

療ノ儀布達候ニ付テハ明治十一年本縣乙第三十號及ヒ明治十二年本

縣乙第九號丙第三號達ハ廢止候條此旨相達候事

岐阜縣衛生課報告第五號 明治十四年八月十九日

本年七月廿五日本縣甲第八十二號ヲ以布達ノ郡醫住所姓名左ノ通候條此旨報告ス

美濃國

厚見郡鶉村

厚見郡醫 臼井九郎

各務郡岩田村

各務郡醫 丸山守一郎

方縣郡黑野村

方縣郡醫 佐野源吉

羽栗郡笠松村

羽栗郡醫 井上靜雄
 中島郡狐穴村 柴田健順
 下石津郡高須村
 海西郡醫 淺野讓
 安八郡大垣町
 安八郡醫 山中春洞
 同 郡鹽喰村
 同 坂八郎
 不破郡垂井村
 不破郡醫 吉田未助
 本巢郡北方村

本巢郡醫 里村良策
 同 郡門脇村
 本巢郡醫 佐竹行三
 多藝郡島田村
 多藝郡醫 林鼎齋
 上石津郡一ノ瀬村
 上石津郡醫 桑原禎造
 大野郡南方村
 大野郡醫 渡邊九思
 池田郡田中村
 池田郡醫 窪田楨太郎
 同 郡日坂村

同	小林春松
山縣郡醫	高富村
伴	齡齋
武儀郡醫	高野村
杉山周茲	
同	郡神淵村
同	福井周碩
郡上郡醫	島谷村
同	森恒太郎
同	郡下洞村
同	竹村玄達
加茂郡	太田村

加茂郡醫	高井春三
同	郡神土村
同	安江義幹
可兒郡醫	久々利村
同	西山文雄
土岐郡醫	高山村
同	遠山道榮
惠那郡中津川村	
同	花岡麗左右
同	郡明知村
同	勝野貞二

大野郡高山町

大野郡醫 阿保春林

同 郡莊川村

同 中田四郎兵衛

益田郡三郷村

益田郡醫 中田忠太郎

同 郡下原方

同 加藤習古

吉城郡古川村

吉城郡醫 垣越春庭

同 郡神岡村

同 福川文齋

〔丙第拾號〕明治十四年三月十日本縣下種痘醫之儀ハ從來結社ノ上受持町

村ヲ定メ施術爲致來候處自今相廢候條左ノ通相心得各自宅ニ於テ施術候様各醫員ヘ無洩可告知此旨相達候事

一從來開業ノ醫師種痘術志願ニシテ種痘免狀ヲ所持セサルモノハ所屬郡役所ヲ經テ願出ツヘシ試験ノ上合格ノモノハ免狀ヲ付與ス

但内務省醫術開業免狀ヲ所持スルモノハ此限ニアラス
一種痘施術料ハ各自ノ志ニ任セ一定ノ額ヲ設クヘカラス

但從來種痘證書料トシテ金三錢宛收入候儀モ有之處自今相廢スヘシ

一痘苗ハ醫師ニ於テ互ニ相分與候儀ハ勿論ニ候得共臨時缺乏ノ節ハ所屬郡役所ヲ經テ拂下テ願出ヘシ

但時宜ニヨリ無代價ニテ下付スルヲアルヘシ

一人家稠密ノ市街ニ於テハ更ニ結社スルモ妨ケナシト雖モ受持町村ヲ定ムルヲ得ス

〔丙第十三號〕明治十四年三月廿八日戸長衛生委員明治十三年九月内務省甲第十一號布達ニ依リ各種痘醫ヨリ每半年出ス所ノ種痘表ハ衛生委員ヨリ郡役所去經テ縣廳ハ可差出此旨相達候事

但昨明治十三年下半年期分ハ早々差出スヘシ

〔甲第九十二號〕明治十四年八月十八日種痘心得別冊之通相定候條此旨布達候事

種痘心得

第一條 種痘濟否調査ノ爲メ町村衛生委員ハ種痘人名簿第一號式ヲ製シ置キ其町村内ニ居住スル者ハ本籍寄留ヲ論セス年齢二十五以下ノ者ヲ悉皆記入シ生死移轉等ノ出入アル毎ニ加除訂正シ且天然痘或ハ種痘ノ初種再三種濟ノ年月日善感不善感ノ別ヲ無洩記入シ置ヘ

シ

第二條 町村衛生委員ハ種痘人名簿ニ依リ未痘兒及再三種ヲ要スル者ノ姓名年齢ヲ取調種痘時期ニ至リ父兄ヲ諭シ最寄種痘醫ニ就キ種接セシムルヲカムヘシ

但本條未痘兒及再三種ヲ要スル人員ハ豫メ郡役所へ届出毎月種接濟ヲモ届出ヘシ

第三條 郡役所ニ於テハ毎年種痘ノ期末ニ於テ主務員出張シ便宜數町村取纏メ種痘人名簿及届書等ヲ檢査シ種痘ヲ怠ルモノアラハ衛生委員ヲ督促シ牛痘普及ヲ圖ルヘシ

第四條 種痘ノ年期ハ天然痘豫防規則明治九年内務省第一條ニ依ルハシ其種接ノ期ハ毎年二期三月ヨリ六月迄九月ヨリ十二月迄トス

但天然痘流行ノ兆アル片ハ本文ノ時期ニ拘ハラス種痘ヲ受ヘキ

モノトス

第五條 種痘兒病氣或ハ不得已事故アリテ期限中種痘シ難キモノハ
其事由ヲ記シテ衛生委員ニ届出第二號式ヘシ尤モ事故解除ノ上ハ速ニ
種接ヲ受クヘシ

但病氣ハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第六條 種痘セシモノハ種痘醫ノ指揮ニヨリ種接後六七日目ニ必ス
種痘醫ノ點檢ヲ請ヒ種痘濟ノ證書ヲ受ケ之ヲ其町村衛生委員ニ示
シ種痘人名簿ニ謄記ヲ請フヘシ

但本條點檢ヲ遂ケサル者ハ種痘濟ノ證書ヲ附與セス初種濟ト雖
モ證書ヲ得サルモノハ未痘ト見做スヘシ

第七條 再三種ヲナスモノハ初種ノ片受ケ得シ種痘濟ノ證書ヲ種痘
醫ニ示シ種接ヲ受クヘシ

第八條 種痘醫ハ初種不善感ナルモ直チニ再種シ難キ片ハ種痘醫規
則明治九年內務省第五條ニ依リ其旨趣ヲ記シタル證書號式第三ヲ與ヘ

置他日再種ヲ怠ルヘカラサル旨ヲ諭スヘシ若シ之ヲ怠ル片ハ衛生
委員ヨリ父兄ヘ督促スヘシ

第九條 無謂種痘ヲ拒ミ或ハ無稽ノ説ヲ唱ヘ種痘普及ヲ妨害スル者
等アラハ町村衛生委員ヨリ所轄警察署ヘ届出ヘシ

第十條 町村衛生委員ハ每半期一月ヨリ六月迄種接セシ人員及十五
年以下ノ未痘人員等ヲ種痘人名簿ニ就キ調査シ種痘人員統計報告
書第四號式ヲ製シ一月七月廿日限郡長ニ報告スヘシ

(第一號)

何町(村)何番地
入寄留人ナレハ本籍ヲモ併セ記ス
戸主ノ名ヲ記ス 何 之 誰

天然痘	初種	再三種	出生年月	姓名
何年何月日濟	何年何月日濟 善感	何年何月日濟 不善感	年月日生	戸主或ハ兄弟姉妹何々 幾男女
	何年何月日濟 不善感			何々 同
				何々 同

毎戸區別シテ調製スヘシ

(第二號)

國郡町(村)何番地
何ノ誰長男或ハ何々

何ノ誰
年月日生

右何々ノ事故有之(何病ニ罹リ)候ニ付種痘難相受候間醫按相添
此段及御届候也

年月日

衛生委員

何ノ誰殿

(第三號)

證

國郡町(村)何番地

何之誰長女或ハ何々

何ノ誰

年月日生

右何月何日種痘候處不善感ニ付再種スヘキ處何々ニ依リ追テ種接スヘシ

國郡町(村)種痘醫

年月日

何ノ誰印

(第四號) 料紙半紙

明治何年自一(七)月種痘人員統計報告

一初種

善感

一年以下

何人

二年以下

何人

三年以下

何人

四年以下

何人

四年以上

何人

不善感

年別前ノ如シ

計何人

一再三種

善感

何人

不善感

何人

計何人

一十五年以下人員 何人

種痘濟

何人

天然痘 何人

未痘 何人

右之通相違無之此段報告候也

國郡町村

衛生委員

年月日

郡長宛

姓名印

(十五年以下ノ人員ハ本期末ノ現在數ヲ掲ク)

〔衛生課報告第六號〕明治十四年十月十九日 凡水害ニ罹リタル後ニ於テ家屋ハ汚水ノ浸潤スルモ清潔法ヲ行ハス米穀ハ濕氣ヲ含有スルモ乾燥法ヲ行ハス之ニ住シ之ヲ食シ知ラス識ラス疾病發生ノ原因タルヲ其例枚舉ニ違アラス危殆焉ヨリ甚シキハ莫シ茲ニ公衆注意ノタメ衛生局雜誌中

ヨリ簡便ナル豫防法ヲ抄出シ報告スルヲ左ノ如シ

水害後流行病豫防ノ簡法

第一條 先ツ井ヲ浚フヘシ汚敗ノ濁水ヲ汲ミ去リ汚泥ヲ浚ヒ不潔物ヲ除キ然ル後汚水再ヒ出テハ復タ之ヲ汲ミ去リ其水ノ清澄無臭且ツ不快ノ味ナキニ至リテ後之ヲ飲用ニ供スヘシ

第二條 洪水ニ遇ヒテ久シク汚水ニ浸リタル家ハ退水ノ後清水ヲ以テ悉ク牀、柱、壁、天井等ヲ洗ヒ殊ニ朝夕起臥スル居室並ニ食物ヲ貯製スル庖厨、物置等ハ丁寧ニ洗淨スヘシ又屋内ニ存留シタル衣箱、米櫃、膳具等總ヘテ木製ノ家具ハ亦皆洗淨シ然ル後尙ホ汚痕ヲ見ルヲ有ラハ再三之ヲ洗フヘシ

第三條 善ク牀、壁及ヒ牀下ノ土壤ヲ乾カスヘシ又家具、衣類等モ乾燥スルニ至ラサレハ之ヲ用フヘカラス乾燥法ハ室内ニ於テ焚火ヲ爲

シ時々窓戸ヲ開キテ乾燥ノ際ニ發スル惡氣ヲ驅出スヘシ

第四條 大氣及ヒ日光ハ室内ニ鬱蓄シタル惡氣ヲ淨除シ且ツ室内ヲ乾燥セシムル者ナレハ清朗ノ日ハ必ス日々窓戸ヲ開キ充分ニ大氣日光ヲ通セシムヘシ

第五條 破壁ヲ修膳スル片ハ壁土ノ全ク乾燥シタル後ニ至リテ其家ニ住居スヘシ且ツ前條云ヘルカ如ク室内ニ充分大氣日光ヲ通透セシメントスルニハ修膳ヲ行フ早キニ失スヘカラス

第六條 牀板ヲ剥クヘシ牀下ノ土壤ヲ乾カスニハ極メテ良シトス其地ノ土質水ヲ汲込マサル時ニハ殊ニ之ヲ行フヘシ
以上掲グル所ノ清潔法及ヒ乾燥法ヲ行ハスノ舊屋ニ復住スル片ハ不測ノ疾病ヲ發スルノ懼アリ然レモ若シ己ムヲ得スノ速ニ住セント欲スル片ハ次ニ舉グル數項ノ注意ヲ用フヘシ

〔甲〕身體ヲ温包シ時々洗潔シタル衣服ヲ着換スヘシ

〔乙〕成丈ケ温物ヲ食シ時々酒ヲ用ヒ又或ハ加密列花薄荷葉接骨木花等ノ浸劑ヲ温服スヘシ

〔丙〕時々火ヲ焚キテ室内ノ濕ヲ拂フヘシ但然ル時ハ戸ヲ開キテ空氣ヲ代換セシムルヲ要ス夜間臥ニ就クノ前ニ於テハ殊ニ然リトス
〔丁〕置戸棚箆笥ノ如キ家具ハ總ヘテ壁際ヨリ一尺許離シ置クヘシ是レ壁中ノ濕氣蒸散スルヲ妨ケサランカ爲ニ且ツ衣服ノ如キハ濕ヲ引キテ變色黴敗スルノ憂アレハナリ

〔戊〕穀物及ヒ總ヘテ食物ニ供スル物ヲ貯フル場處ハ早ク乾燥法ヲ行フヘシ是レ濕潤ノ中ニ貯ヘタル物ハ食シテ害アルカ故ナリ

〔丙〕第七十七號 明治十四年十月八日 日戶長衛生委員 京都府以西虎列刺病蔓延ノ勢ニテ既ニ滋賀縣下ニ波及シ大津市街ニ去月十九日ヨリ廿七日迄ニ四名栗太

郡十里村ニ廿四日ヨリ三十日迄ニ七名ノ患者有之旨該縣ヨリ報知有之候間該地方へ旅行候儀ハ可成相見合候據町村内無洩可告知此旨相達候事

〔甲第三百三十號〕明治十四年十月二十日衛生ノ儀ニ付テハ追々布達候趣モ有之候得共左ニ列記ノ條項ハ健康ヲ保全スルニ於テ最モ妨害ヲナスモノニ付一切禁止候條此旨布達候事

- 一 病斃死ノ禽獸肉ヲ食用ノ爲メ販賣シ又ハ之ヲ他人ニ贈與スル事
- 一 路上等ニテ死獸ノ皮ヲ剝キ或ハ其肉ヲ剖割スル事
- 一 禁厭祈禳ヲ以テ醫療ヲ妨ケ湯藥ヲ差止ル事
- 一 金剛砂又ハ磨砂ノ類ヲ混合シテ米穀ヲ搗精スル事
- 一 猥ニ溝渠池水等へ魚鳥獸ノ骨腸塵芥等ノ腐敗汚穢ノ物ヲ投棄スル事

- 一 猥ニ下水溝渠ヲ浚タル淤泥等ヲ市衛人家ノ傍ラニ堆積スル事
- 一 飲食物ヲ贋造シ若クハ不正ノ物質ヲ混和販賣スル事

明治十五年一月廿七日板權免許
同 十二月出版

編輯

兵庫縣平民

山本 太一郎

愛知縣名古屋區
鍛冶屋町三番地
寄留

出版人

山口縣士族

田中 隼之亮

愛知縣名古屋區
伊倉町四十六番地
寄留

(實價參十錢)



